認知症の祖母と共に過ごした日々を振り返る「介護記」

【写真は、おばあさんと僕、地元の運動会で（1977年）】

塩田吉之（しおたよしゆき） クローバー・サービス職員

訪問販売で高額なものを買う

父はデイサービスや、通所リハなどを利用していて、日中祖母一人の日も多くありました。孫は夜遅くまで仕事で家にいても怒ってばかり、話を聞いてくれるのは近所の人や、叔母たち。あとは、突然やってくる訪問販売の人たちでした。【腰の痛みを緩和するというマットレス】【お風呂に入れるだけで温泉と同じ効果で膝の痛みに効くという金属製の物】使うかどうか？もわからない健康器具】など、帰宅したら、何やこれ？という商品が転がっていたり、契約書の控えがあったり、金額を見てびっくりすることも…　ただ「月賦（分割払い）で、わしの帳面から落ちるさかい」と、こちらに何も言わせようとしません。これ以上悪徳業者に騙されるわけにいかないと叔母と共に説得し通帳を預かることにしました。食品の移動販売や、身の回りで使うぐらいのお金を定期的に手渡すことにして…。

それでも、コラーゲン、青汁など、テレビ通販の注文は止められず、悩みの種は尽きませんでしたが、通帳を預かり、お金の管理をこちらですることで、訪問販売による高額商品の購入はなくなりました。

ヘルパーさんをお客さん扱い

物忘れや、鍋焦しなども増えてきて、日課だった掃除もしなくなってきていたので、訪問ヘルパーをお願いすることになり、週に2回ヘルパー利用を開始したのだが…長くは続きませんでした。「（他人さんに）家事をさせるわけにはいかない」と、お茶を出してなかなか家事をさせてもらえない。ヘルパーさんが作ってくれた食事も「作ってもらったもんやから、もったいない」と手を付けず、漬物やお茶漬けで簡単に済ませたり、ヘルパーさんが訪問しても（訪問を忘れて）家にいない事も多く、結局ヘルパーは数カ月も来てもらわずに終了しました。

「ふぅ～。楽になった」祖母の一言

ある夜帰宅すると、祖母と父が先に食事をしていました。すると父が「苦い」と言いだした。祖母が作った炒め物が苦いと言うのです。一体何を使って調理したんだ？と、キッチンに行くと、使い終わったフライパンの横に食器洗剤があり『おばあさん！炒めとって、泡でーへんだか？』「そんなん知らん！」と言っているものの、食器洗剤で炒めたのは明らか。油と洗剤の区別もつかなくなったか…　呆れるしかありませんでした。

もうあかん。そう思った私はこう言った。『もう料理は全部僕がやるさかい、おばあさんはせんといて！』『そのかわり、洗いもんだけは、おばあさんがやってや！』すると祖母の口から一言。「ふぅ～。楽になった」それ以降、調理は全部私がして、祖母がコンロの前に立つことはほぼなくなりました。調理師なのに、家では気が向いたときぐらいしか作っていなかったのも反省しつつ、つい出た言葉だったが、祖母にとっては重荷がおり楽になった瞬間だったと思う。

【認知症と本気で向き合う決意】きっかけは、松井秀喜と、松たか子

ある日、祖母に頼まれ畑仕事の手伝いをしていたら、突然祖母が「今度、松井秀喜と松たか子さんの仲人をすることになったさかい！」と言い出した。一瞬『は？』となり、『何やて？』と聞き直したが、出てくる言葉は同じだった。『そんなん出来るわけないやん。連絡先とか知らんやろ！』「役場に聞いたら教えてくれるてや！」『役場に聞いてわかるわけないやろ！本気で言うとるんか！？』何度かそんなやり取りをしても、聞く耳を持たず、二人の仲人をすると言い張る祖母に『もう知らん！』と呆れるしかなかったのだが…　突然言い出した祖母の【妄想話】に困惑した私は、叔母に『こんなこと言うとるんや』と相談をした。「明日には忘れとるやろ」と叔母に言われ、そう思い翌日もその翌週も同じ話をするのだった。

その仲人話は我が家だけではなく、近所の人にも祖母は同様に話をしていて「ことみさんがおかしならはった。大丈夫か？」と、近所でも噂話が出回り始めた。

物忘れだけにとどまらず、本当におかしくなったと悩んだ私は、職場の同僚にも『こんなこと言うとるんや』と、話を聞いてもらったが、ただの笑い話としかとってもらえず「私が松たか子のふりして、電話してあげよか？」という始末。本気で悩んでいるのに冗談で返されたと思い、それは断ったが、今思えばいい手だったかもしれない。

ただ祖母の数々の言動に悩んでいた私に余裕はなく、悩みでどんどん痩せていった。体重計に乗って驚いた。45㌔まで落ちていたのだ。身長はあまりないものの、成人男性で45㌔は痩せすぎだろう。それから20㌔近く太ってしまった中年おやじとしては、戻りたい気分ではありますが（笑）

これがきっかけで、本気で祖母の認知症と向き合う覚悟を決めました。これからも一生忘れないスタート地点です。

【後日談】その理由を知る

数年後、祖母の認知症の症状も落ち着きを見せ、ふと意地悪で祖母に問いかけました。『松井秀喜と、松たか子の仲人する言うてたん覚えてるか？』祖母は「覚えとるで」と…『ほんまかいな』と尋ねたところ「二人の仲人したら、世話賃（お金）ようけもらえるやろ」としれっと言い放ったのです。

まさかの言葉です。なんでそんなことを言い出したのか？振り返ると一緒に買い物をしていた時、次々と欲しいものをカゴに入れる祖母に『うちはお金ないさかい』と言いながら、そっと棚に戻すことも多く、それで【お金がない】と思い（小さな子供と一緒やな）何とかしないと！と祖母なりに、知恵を絞った結果なのかもしれません。

しかし、当時はどちらも独身。もしそうなっていればビッグカップル誕生でしたね。